

アンケート結果の分析については、本学のユニークな学科構成を考慮して、学科・センター別に分析を行った。
以下に学科・センター別に分析した結果を示す。

【環境園芸学科】

平成 25 年度環境園芸学科授業評価アンケート集計結果

表 アンケート平均値の推移(環境園芸学科授業全体)

設問番号	H22年度		H23年度		H24年度		H25年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
①	4.48	4.38	4.37	4.24	4.28	4.24	4.37	4.29
②	2.67	2.81	2.66	3.05	2.79	2.95	2.82	2.69
③	3.19	3.32	3.23	3.44	3.35	3.45	3.46	3.34
④	4.08	4.21	4.05	4.18	4.18	4.18	4.19	4.05
⑤	3.82	3.97	3.94	4.10	4.02	4.02	3.98	3.97
⑥	4.25	4.33	4.26	4.35	4.40	4.32	4.42	4.40
⑦	3.98	4.14	3.99	4.21	4.11	4.15	4.11	4.08
⑧	4.30	4.40	4.36	4.37	4.40	4.40	4.44	4.33
⑨	3.56	3.76	3.65	3.85	3.78	3.83	3.84	3.75
⑩	3.86	3.99	3.98	4.04	4.06	4.05	4.11	3.98
⑪	3.77	3.97	3.90	4.03	4.01	4.01	4.02	3.93

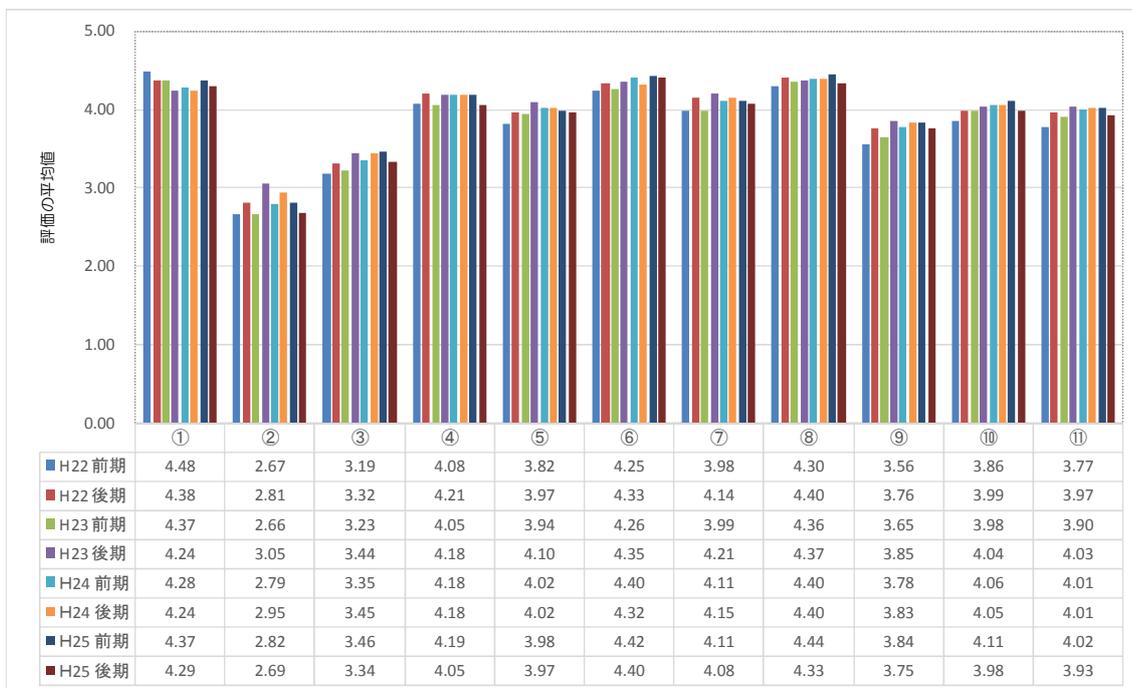


図 アンケート平均値の推移(環境園芸学科授業全体)

1. 平成 25 年度(前・後期)の環境園芸学科授業評価アンケート集計結果

1)全体について

・本年前期は昨年度後期の平均値と比して、ポイントは 11 項目中 8 項目で増、3 項目で減となっているが、顕著な値の変化は見られない。これに対し、本年後期は前期と比較するとやはり大幅なポイントの変動はないが、11 項目中全項目においてポイント減となっている。このような事態は平成 22 年度後期と平成 23 年度前期の間でも起きているが、その原因は講義をする教員側にあるのか、受講学生側にあるのか、あるいは両者にあるのか、原因の有無も含めわからない状況にある。いずれにしても講義をする教員としてはこれまでの各自で記載した授業改善報告書を踏まえ、授業改善に取り組みたい。

2)各設問について

・設問 1. 前後期とも、平均値は 4 点台であるが、よく出席したとは考えていない、回答「1、2、3」の学生が 2 割程度(前期:17.8%、後期:20.3%)存在することに注視し、学生の取り組み姿勢の改善を図り、今後はこの値を下げるような取り組みが望まれる。

・設問 2. 他の設問と比べ、依然としてポイントが低い。少人数でのゼミとは違い、受講生が多数の講義では、質問や発言しにくい、時間がないことなどもその要因として考えられる。講義終了後に質問される場合も多くみられることから、講義終了後の質問についても設問に記載しても良いと考える。

・設問 3. 前期はこれまでの各期の結果の中では最も高いポイントだったが、後期はポイント減となっている。各期とも設問 2 に次いで低評価であり、回答の「3 どちらともいえない」を含めると半数以上(前期:52.0%、後期:55.7%)の学生が積極的に取り組んでいないと回答している。各科目の位置づけを第一回目の講義や専攻説明会などを通じて明確にし、特色に合わせて自発的な参加意欲を高めるような具体的方策が望まれる。

・設問 4. 前後期とも「1、2」つまり教員の声が聞き取り難いとの回答が 1 割を切り、前期は 4.9%と極めて低い値であった。マイクの使用や教室の変更などの各教員の対応により改善が図られたものと考えられる。各授業において学生に声が聞こえているかを確認することにより、より改善がなされるものと思われる。

・設問 5. 前後期ともおよそ 1 割弱が「1、2」つまり教員の板書等は見づらいと回答している。プレゼンテーション方法や質の工夫など、各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問 6. 比較的授業時間は守られていると判断されている。継続が望まれる。

・設問 7. 不満を抱いている学生は 10%以下で、概ね良好であると考えられる。現在の状況を維持しつつも、授業中、学生に意見を聞いたり、問いかけをしたりするなど学生の理解度や意見を吸い上げる工夫が望まれる。

・設問 8. 各教員が熱意を持って授業に取り組んでいると判断される。継続が望まれる。

・設問 9. 「5」つまり授業を非常によく理解できたと回答しているのは全体のおよそ 1/4 不足で、「4」の多少理解できたと回答している学生よりも少ない。多くの学生が自信をもってよく理解できたとは言えない状況にある。設問 2)および 3)の結果を合わせ考えると、学生の取り組み姿勢といった根本的な課題とも考えられる。今後の継続的な分析と取り組みが望まれる。

・設問 10. 「3」のどちらともいえない、を含めるとおよそ 1/3 の学生に将来役に立つと認識されていない。設問 9)と同じく学生の取り組み姿勢についての課題もあると思われるが、科目の意義や位置づけ、特色の理解を深めることが改善に結びつくと思われる。

・設問 11. 「5、4」と満足感を得られている解答した学生が約 7 割とおおむね良好と思われるが、「5」の割合は約 3 割であった。この評価は他の全設問を通した総合的な評価であり、多くの学生において絶対的な満足感が得られているわけではない。これまでの授業評価結果をもとに各教員は各設問項目を中心に改善を図っているが、